鳥取県地域医療支援センター 広報誌

2022 / Summer vol.07

DOCトリ!

鳥取の地域医療を考えるマガジン　ードクトリ！ー

特集1　鳥取県西部エリアで働く **若手医師座談会**

特集2　鳥取県地域医療支援センター新体制 **若い力が生きる場に**

DOCトリ!

第7号 2022年8月発行 鳥取県地域医療支援センター

※本誌掲載の写真、図版、記事などの無断転載を禁じます。

鳥取県地域医療支援センターからのお知らせ

NEWS 1

鳥取県内43病院の医師数は足りている？

2022（令和4）年の『医師数調査結果』が出ました

鳥取県では、県内病院において必要としている医師数の現状を把握し今後の施策に生かすため、毎年1月1日現在で「医師数に関する調査」を実施しています。

「必要数」とは、現行の診療体制を基本とした上で、各病院が令和4年4月1日に必要としている医師数です。

「現員数」は令和4年1月1日現在の医師数で、初期臨床研修医を除いています。

鳥取県全体

必要数 1,379.7人

現員数 1,185.9人　不足数 193.8人

充足率 86.0%

県内全域で医師数は不足

東部保健医療圏（14病院）

必要数 443.1人

現員数 366.1人　不足数 77.0人

充足率 82.6%

中部保健医療圏（10病院）

必要数 200.3人

現員数 145.7人　不足数 54.6人

充足率 72.7%

西部保健医療圏（鳥大病院を除く18病院）

必要数 338.5人

現員数 293.7人　不足数 44.8人

充足率 86.8%

鳥大病院

必要数 397.8人

現員数 380.4人　不足数 17.4人

充足率 95.6%

鳥取県地域医療支援センターについて

鳥取県地域医療支援センターは、鳥取県・鳥取大学医学部附属病院が連携し、鳥取県の地域医療の充実・発展のために2013（平成25）年1月に設置されました。私たちは、鳥取県の医師不足解消のために、地域枠などの医師のキャリア形成支援や医師の地域偏在解消に取り組んでいます。専任医師も勤務しており、皆さまのご相談などを伺っています。

ご相談やお問い合わせはこちらまで

鳥取県の医療・奨学金制度に関すること

鳥取県福祉保健部 健康医療局 医療政策課
〒680-8570 鳥取県鳥取市東町1丁目220
TEL 0857-26-7195　FAX 0857-21-3048

医師のキャリア形成・相談に関すること

鳥取大学医学部附属病院 鳥取県地域医療支援センター
〒683-8504 鳥取県米子市西町36-1
TEL 0859-38-7005　FAX 0859-38-7006

とっとりドクター Naviの配信を始めました

鳥取県の地域医療に関心をお持ちの全国の高校生・医学生・研修医の皆さまに向けて県内の医療情報や勤務に関する情報、医師としてのスキルアップに役立つ情報をメールでお届けします。どなたでもご登録いただけます。

ご登録いただいた方には、『DOCトリ!』を毎号お届けします!

「とっとりドクター Navi」ご登録住所の確認について

とっとりドクター Navi登録者の皆さまにおかれまして、勤務先の変更や転居により送付先住所に変更がございましたら、お手数ですが鳥取県地域医療支援センター（本ページ末尾）までご連絡をお願いいたします。なお、ご登録情報の変更については、鳥取県医療政策課ホームページの登録申込フォームでも承っております。

とっとりドクター Navi

登録申込フォーム ▸▸▸

https://www.pref.tottori.lg.jp/273080.htm

広報誌名『DOCトリ！』の由来

「DOCTOR」と「鳥取県」を合わせた造語です。医師の皆さんに、鳥取県で活躍してほしいという願いが込められています。

編集発行 **鳥取県地域医療支援センター**

〒683-8504 鳥取県米子市西町36-1（鳥取大学医学部附属病院内）　TEL 0859-38-7005　FAX 0859-38-7006
Eメール t-chiikicen@med.tottori-u.ac.jp　ホームページ https://www2.hosp.med.tottori-u.ac.jp/t-chiikicen/

□ 制作／有限会社キーワード　〒680-0051 鳥取県鳥取市若桜町39 ロゴス文化会館1F　TEL 0857-29-4018

鳥取県西部エリアで働く

若手医師座談会

前号特集「日野×日南×西伯 病院長座談会」を受け、今号では鳥取県西部エリアで活躍中の若手医師5名に集まっていただきました。「鳥取県医師確保奨学金制度」等を活用して医師となり地域医療に携わる彼らは、その実践の中で何を感じているのでしょうか。これからのキャリアプランも含め、率直な気持ちを語り合っていただきました。

人を見て、その背景を見て
地域で医師としての基本を学ぶ

中山間地の地域医療実践で感じたやりがいと孤独

▼池田　私は医師5年目で、皆さんの中で一番経験が浅いのですが、昨年度1年間、日野病院の内科に勤務しました。それまでいた鳥取県立中央病院と違い、医師の数がぐっと少なく、同期がいないからか、置いていかれたような寂しさを感じる時がありました。自由にできる分、不安も強かったです。

▼木山　私は西伯病院での勤務が2年目です。その前は島根県松江市にある松江赤十字病院にいました。西伯病院では、のんびりした雰囲気を感じながらもやる気を持ってやっています。時々気持ちがもやもやするのは、中山間地域だからというのではなく、診療での悩みかな。

▼吉田　僕は、西部エリアの自治体立病院での勤務は、今の日南病院が初めてです。市中の総合病院と比べて、時間の流れは明らかにゆっくりしています。忙しすぎないから自己研鑽の時間も取れる。そこがいいなと思っています。患者さんや病院スタッフとの距離感が近く、皆さん親しみを持って接してくださるのもいいところですね。

▼津田　私は医師7年目なんですが、3年目に鳥取県立厚生病院、4年目に岩美病院、5年目に日野病院、6年目に名和診療所と、1年ずつ異動していたので孤独感は強かったですね。特に、直近の名和診療所では医師は自分1人だけで、何か困ったときに相談できる人が身近にいないから余計に寂しい。高齢者が多く、認知症があり、心臓も腎臓も悪くて、いろいろな合併症があって…、という患者さんに対応することもあり、難しさも感じていました。

▼下坂　私は4～6年目の3年間日野病院に勤め、8年目の今年再び日野病院に帰ってきました。慣れている病院に戻ってきたから、人間関係も一からではなく、いい意味でも悪い意味でも世界が確立しています。地域の病院は日野病院しか知らないから、来年度他の地域に派遣されたらどれだけ順応できるか、少し不安を感じます。

専門的医療か、総合診療か住民が求める医療とは

▼池田　こういった中山間地域で求められる医療って、どんなものだと思いますか。

▼津田　「逃げない医療」かな。患者さんのニーズとしては、「暮らしている地域の病院で、ある程度治療が完結できる」というのがあると思っています。米子市内の大きな病院まで行くためには車で約1時間かかり、そこから長い時間待って診察・検査を受けていると、ほぼ1日がかりになってしまうから。気軽に相談しやすいところとして地域の病院があるんだから、「専門外なので無理」と断るのではなく、いろんな疾患に対応できることが求められていると思います。

▼池田　確かに、「できるだけここで診てほしい」という患者さんの気持ちを感じますね。でも、重症な病気の場合は難しいし、責任の重さを痛感します。腹をくくってやらないといけないと思うことがあります。

▼木山　そうですよね。そういう場合、看護師さんたちからは「ここで診るのは無理ですよ、大きい病院へお願いしましょう」と言われ、板挟みになって悩むことがあります。

▼下坂　津田先生と一緒で、僕も「広く浅く」になるかなと思っています。「何でも受け入れる」という意味で「広く」なんだけど、広さを求めると深さは出せないから、「浅く」の中でどれだけ対応できるか。もちろん、ある程度標準的なことをできるのが理想だし、さっき言われたように、地域のニーズとして「できるだけ完結してほしい」という要望があるから、それに応えられる気概と診療技術が必要なのかな。

▼吉田　日野病院は診療科が結構そろっていますが、日南病院は限られます。できる限り対応しようと思うけど、高度な医療が必要な場合は日野病院や市中の総合病院へお願いします。適切なタイミングで専門医に紹介することは心がけていますね。

▼下坂　その医療機関でできることと自分の診療能力の見極めは大事だよね。疾患によっては、判断が遅れると致命的なことになりかねない。受け入れるけど抱え込みすぎない、粘りすぎない。そこら辺のバランス感覚が大事だと感じています。もし「本当は専門的な治療がいいけど、ここで診る」となった場合、患者さん本人やご家族に緊急時のことも含めて納得してもらう必要があるので、日頃から信頼関係を築いておくことも大切ですよね。

(独)労働者健康安全機構
山陰労災病院
外科 | 津田（つだ） 亜由美（あゆみ） 先生

鳥取市出身。2016年自治医科大学医学部医学科卒業。初期臨床研修で回った外科で、手術手技の面白さに目覚める。地域派遣で磨いた消化器内視鏡の腕が外科手術の場面でも生かされている。消化器外科の専門医取得を目指して研鑽中。

日南町国民健康保険 日南病院
内科 | 吉田（よしだ） 諒（りょう） 先生

鳥取市出身。2017年鳥取大学医学部医学科卒業。米子市内まで車で約1時間かかる日南町では「予防医療」が何より大事と、生活習慣の指導、健（検）診に力を注いでいる。サブスペシャルティとして循環器の専門医取得を目指す。

日野病院組合 日野病院
内科 | 下坂（しもさか） 拓矢（たくや） 先生

境港市出身。2015年鳥取大学医学部医学科卒業。鳥取県医師確保奨学金制度・特別養成枠の第1期生。日野病院で大腸内視鏡の腕をこつこつと磨いてきた。鳥大病院消化器内科に入局。大学院社会人コースに在学し、診療の傍ら臨床研究にも取り組む。

ゆっくり、のんびり、
だけど簡単じゃない。
地域医療は見極めが難しい。

鳥取大学医学部附属病院
脳神経内科 | 池田（いけだ） 紗矢（さや） 先生

米子市出身。2018年鳥取大学医学部医学科卒業。地域医療の現場では、患者を福祉とつなぐことができるのも医師の重要な役割と学んだ。認知症、てんかん、ALSなどを扱う脳神経内科は診断や管理が難しいが、そこにやりがいを感じている。

南部町国民健康保険 西伯病院
精神科 | 木山（きやま） 典子（のりこ） 先生

米子市出身。2017年鳥取大学医学部医学科卒業。鳥大病院での初期臨床研修後、精神科に入局。他の診療科にはない謎に満ちている同科に面白みを感じ、“自分らしさ”を発揮することで患者にできることがあるのではないかと奮闘している。

悩みや歯がゆさを感じながら
人として、医師として成長

現場で起こる思わぬ出来事 悩んで迷って、戸惑う日々

▼下坂　身寄りのない高齢者が突然外来にいらっしゃると、困ることが多いです。認知症がある場合、治療方針の決定も難しい。結局、医師だけでは解決できないから、ソーシャルワーカーさんに相談して、スタッフみんなで決めていくという形に大体はなるんですけどね。

▼木山　中山間地域は若い人が市街や県外に出ている家庭が多いから。社会的事情がある中で、どうマネジメントしていくかですよね。多職種で相談されているのはいいことだと思います。

▼下坂　でも、「この症例の場合はこう」とパターン化できるわけではなく、オーダーメイドみたいなものだから、それなりに時間をかけないといけなくて大変ですね。

▼木山　西伯病院では最近、切り分けられない疾患というか、「何科が診るんだろう」みたいな患者さんが多いと感じています。そういう場合、例えば患者さんに認知症があったら「それは精神科でしょう」と言われて、対応しないといけない患者さんが増えていく。「お話は聞きますよ」といって来てもらうんですけど、「はて、私が診て良かったんだろうか」みたいなことはあります。

▼吉田　僕は、赴任したばかりで日南町のことをあまり知らないから、どこに施設があるかとか、まず地域の情報を勉強するところから始めないといけないのが結構大変かな。それからやっと、患者さんそれぞれの社会背景を知って、自分がどうマネジメントするかを考える。

▼津田　その気持ち、よく分かります。私も1年交替でいろんな自治体立病院へ行ったから。病院内も先生方もスタッフの皆さんも、みんな初めまして。患者さんやご家族と仲良くなるのも時間がかかるのに、派遣医師は1～2年後には交替。患者さんに「また異動か」と言われると、「すみません」みたいな（笑）。

▼池田　絶対に言われますよね。ちょっとつらい。

◀ 地域医療に携わる中で、外科医の道を見出した津田先生。正確かつ丁寧な手技で外科手術を行う。

◀ 病院スタッフと打ち合わせを行う吉田先生。地域医療における多職種連携の重要性を日々実感している。

▼津田　患者さんから見たら「またいなくなってしまう」なんですよね。それを口に出されると、申し訳ない気持ちになりますね。

丁寧な診療を続けることで見えてくる大切なもの

▼池田　日野病院にいたとき、生活習慣病で診ていた高齢独居の女性がおられたんですが、「近頃、薬局で同じ薬ばかり買い込んでいる」と連絡が入ったんです。ご近所の方や薬局の方が役場に連絡してくださったようで。改めて診察すると、認知機能の低下が認められ、認知症として服薬と介護保険の適用を開始しました。役場やご近所の方の支援を受けながら、高齢女性はその後も独居生活を続けることができました。こうやって地域で守られているんだと実感しましたし、自分もサポートの輪に関わることができたので、やりがいを感じました。

▼津田　認知症の診断と、その対応につなげることができたんですね。すごくいい経験。

1人の患者さんとの
出会いから看取りまで
関わることができました。

私も日野病院でのことを思い出しました。90代の女性が貧血で外来に来られ、私が診察し、胃カメラをして、胃がんと診断しました。私は内科医として勤務していたんですけど、外科研修で手術もさせてもらっていたので執刀を担当しました。その後退院されましたが、診断時にステージが進行していたので再発し、最期の看取りまでさせていただきました。1人の患者さんを初診から終末期まで診させてもらうことができた貴重な経験でした。

▼吉田　池田先生が言われたとおり、多職種のスタッフとの連携や振り返りはいいですね。日南病院は多職種連携を大切にしていて、毎週月曜日の夕方に医師、看護師をはじめ、保健師、介護士、ソーシャルワーカー、行政職員など、ほとんど全ての職種が集まって「在宅支援会議」を行っています。以前は集まって会議をしていたんですけど、今はオンライン。それでも保健師さんたちの意気込みがすごくて、パソコン画面からバリバリ熱意を感じるんですよね。

▼一同　（笑）

住民の暮らしを支えるのは温かみある私たちの医療

経験を重ねた今だからこそできる心がけや新たな努力

▼池田　新しい病院に赴任するとすごく緊張しますが、シャイなままだと仕事ができない。しっかりとコミュニケーションを取るために、意識してメンタルを鍛えないといけないと思っています。看護師さんは年上の方が多いけど、診療の中心は医師だから、こちらが指示を出すというか、お願いすることが多いですよね。患者さんの夜中のケアとか点滴の交換とか、「患者さんのためにお願いします」という気持ちを出して、相手の気持ちを考えつつ医師としての主張もする。当たり前だけど大事だと痛感しています。

▼木山　確かにそうですね。私が心がけているのは、「自分にできることを素直に何でもする」こと。何でも押し付けられないように気を付けてと上司には言われるんですが、「無理です」と返されたら悲しいじゃないですか。自分にできることを見つけて、「〇〇ならできますよ」と答えるようにしています。

▼吉田　僕は今、勉強を頑張っています。コロナ禍で学会やセミナーがオンライン開催となり、地域にいても参加できるから、情報とか知識を得やすいですよね。

▼津田　私は、主治医意見書をめちゃくちゃ頑張って書いていました。

▼下坂　なぜ？

▼津田　「介護度を判断するのに一番重要だよ」と大学で習ったから。ＡＤＬ（日常生活動作）や認知の具合は、誰が見ても同程度の判断ができるけど、今持っている病気、家族の関係、困っていることなどはより具体的に書いたほうが認定員さんに伝わる。要介護度によって患者さんが利用できるサービスが変わってくるので、外来診察時に時間をかけて丁寧に聞き、書けるだけ書くように意識していました。

▼下坂　高齢者の生活に寄り添った対応ですね。僕は、こうやって地域に出て仕事をしていて、何か自分の強みになる医療分野があったほうがいいんじゃないかと感じています。何か1つ深いところまで知識があったら、最初に話した「広く浅く」の視点も少し変わってくるんじゃないかなと。たとえ1つの分野でも地域医療に生きるところもあるだろうからこだわってみようと思って、週1回、鳥大の消化器内科へ研修に行かせてもらっています。

地域医療を担う医師として目指す今後のキャリアは？

▼下坂　今のはキャリアプランの話でもありますね。僕は鳥取大学の医局に所属していて、去年1年間は鳥大病院の消化器内科で勤務したから、基本的にはその方向に進み、専門医を取得したい。大学院社会人コースに在学していて、学位取得も目指しています。皆さんはどんなふうに考えていますか。

▼津田　私は鳥大の第一外科（消化器外科）に所属していて、消化器外科の専門医を取りたいと思っています。今、後期研修で経験症例を積んでいるところです。私は胃カメラや大腸カメラのスキルも地域医療の中で磨いてきました。外科でカメラができる医師が減っているようで、おかげで結構重宝されています。

▼吉田　僕は内科専門医と、サブスペシャルティとして循環器の専門医取得を目指しています。鳥大の内科専門医プログラムに入っていて、今４年目。内科専門医の試験を来年度受けたいですね。

実は妻も医師です。だから、彼女のキャリアプランも尊重したい。それに子どもがいるので、学校のことも考えないといけなくて、居住地をどこにするか悩んでいるところ。家庭を大切にしながら、自分のキャリアを積んでいくことができたらと思っています。

▼木山　私は鳥大の精神科プログラムに属していて、４年目になったところ。今年は精神科の専門医と、精神保健指定医の申請を出せる最短の年。レポートを書いて、準備をしているところです。「ここでやってくれたら助かる」と言われれば、ありがたく行かせていただき、自分ができることをやらせてもらうといいのかなと思っています。

▼池田　皆さん、しっかり考えておられるんですね。私も内科専門医を取って、脳神経内科医になりたいと思っています。吉田先生と同じく、家族や家庭のことを考えるとまだはっきりと決められないところも多いんですが、勤務医として県内で働けたらありがたいですね。

今回、先輩方の話を聞けてとても参考になりましたし、心が軽くなりました。今度はもっと多くの仲間と、こんな交流会ができたらいいですね。

医師としてのキャリアも
家庭のことも
大切に生きていきたい。

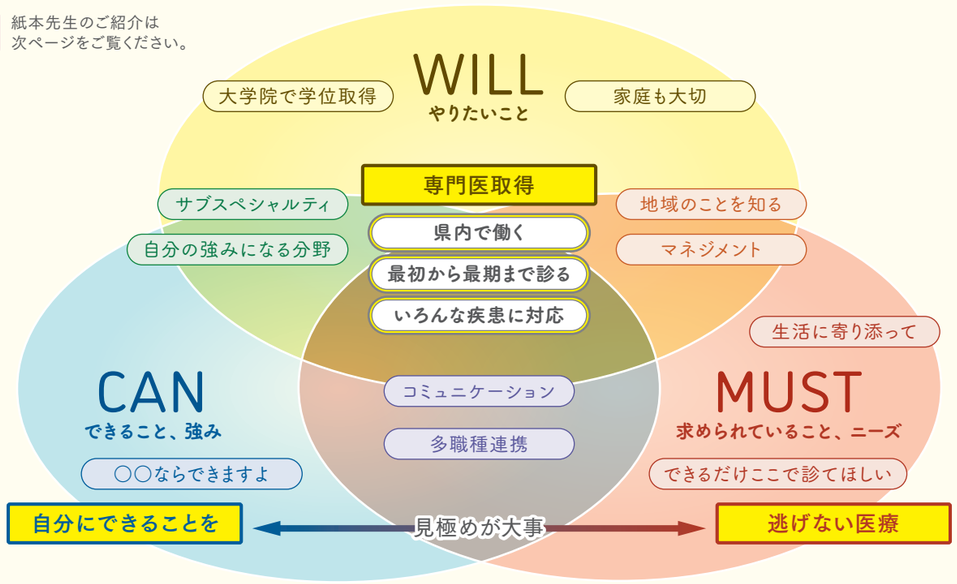
座談会のまとめ

紙本 美菜子 特命助教

紙本先生のご紹介は
次ページをご覧ください。

会話の中から気になる言葉をピックアップして、構造的に分析！

「地域医療のニーズ（MUST）」を肌で感じながら、その中でも「自分にできること（CAN）」を見つけ、「自分の将来像（WILL）」に関連させながら、様々な経験を積みながら頑張っておられることが分かりました。皆さん、とても頼もしい存在です。
「MUST」「WILL」「CAN」の3つの円が重なる部分が大きければ大きいほど仕事のやりがいを感じられるといわれています。今後のご活躍を期待しています!!



特集2

鳥取県地域医療支援センター新体制
若い力が生きる場に

2013（平成25）年1月に発足した鳥取県地域医療支援センターは、鳥取県の地域医療の充実・発展のため、医師不足の調査・分析をはじめ、奨学金制度の推進、医師のキャリア形成支援、相談対応や情報発信など、様々な取り組みを行っています。

10年目を迎える今年、これまでの活動を礎に、もう一歩踏み込んだサポートを行おうと新たな体制を整えました。紙本美菜子先生が当センターの特命助教に着任し、学生や若手医師のニーズを探りながら今の時代ならではのやり方で寄り添っていくことを目指しています。紙本先生のお話を伺いながら、これから展開しようとしている取り組みなどをご紹介します。

▲2022年4月1日、特命助教に着任した紙本先生。専任医師の福本宗嗣先生（左）と共に、医学生や若手医師らのキャリア形成サポートに意欲を燃やす。

仲間とつながる場をつくる

フラットに対話できる交流の場でキャリアを支援

――センターの体制はどのように変わったのでしょうか？

下図に示す赤字の項目が新たな業務内容として加わりました。基本的な体制は変わりませんが、鳥取大学医学部地域医療学講座との連携をさらに深め、医学生の地域医療教育の支援に力を入れていきたいと考えています。「症候学」や「地域医療体験実習」など、私も講座の授業を幾つか受け持っているので、地域医療を実践していくために必要不可欠なエッセンスを伝えていきたいですね。

――若手医師のキャリア形成支援も新しい取り組みを考えているそうですね。

「鳥取県医師確保奨学金」制度を利用している若手医師の皆さんのキャリアプランの悩みなどに従来から応じていますが、個別相談はもちろん、同年代の地域枠等医師同士、あるいは先輩・後輩のつながりが持てるようオンラインコミュニティーをつくりたいと思い、一部で運用を始めました。時間を有効に使うことができ、場所を選ばないので、参加のハードルが下がるはず。より対話を重視した関わりを意識して、皆さんの声を拾い、前向きにキャリアを歩んでいけるようなお手伝いができたらと思っています。

――医学生のうちから関係性を築いておくといいですね。

そう思うのですが、学生は関係性が希薄で、お互いにあまり干渉しないような雰囲気があります。いざ地域の医療機関で働き始めると、誰かに相談したいような悩み事が必ず出てくると思うので、地域医療学講座と連携し、授業やSNS等を活用して、在学中から地域枠の仲間を意識してもらうような取り組みを行っています。

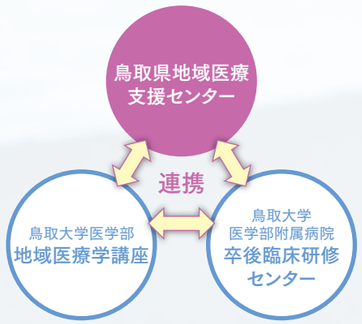
昨年度、「地域枠の先輩がどこでどのように働いているのかを知りたい」という医学生からの要望をもとに、キャリア講演会を開催しました。先輩医師が地域医療の現場でどのようなキャリアを歩んでいるのかをレクチャーし、その後開催した相談会が好評でした。ロールモデルを知ってもらう機会として、今年度も実施したいと考えています。

個別にキャリアサポートを行うだけではなく、医学生や若手医師がお互いの存在を知り、関わり合っていけるような仕組みを作りたいです。

組織 ／ 業務内容	鳥取県地域医療支援センター	
	鳥取大学医学部附属病院	鳥取県医療政策課
医師不足状況等の把握・分析	●医師不足調査の実施 ●個別医療機関へのヒアリング 等	
医師不足病院の支援	●奨学金貸与者の県内勤務への支援	●医師登録、派遣システムの運用 ●無料職業紹介事業の実施 ●医師不足病院への代診等の支援
医師のキャリア形成支援	●研修プログラム作成支援 ●奨学生等の研修履歴、勤務状況および専門医取得状況の把握 ●地域医療教育の支援（地域医療学講座との連携）	●奨学生等のセンターへの登録 ●県内外専門研修、地域医療体験研修の機会の提供
	●奨学生等への面談、アドバイス　●キャリア形成モデルの提示	
情報発信と相談への対応	●ホームページ、広報誌等による情報発信　●とっとりドクターNaviの運用 ●県内外の医師、医学生、高校生などからの相談への対応 等 ●地域医療の発展に関する研究	
地域医療関係者との協力関係の構築	●地域医療支援センター運営委員会の開催 ●地域医療対策協議会等への参加　●臨床研修指定病院協議会との連携 等	

センターの業務内容

鳥取県と鳥取大学に事務局を置き、相互に連携しながら、県内の医師確保対策や医師のキャリア形成支援に取り組んでいます。



鳥取県地域医療支援センター

紙本（かみもと） 美菜子（みなこ） 特命助教

1982年　鳥取県大山町生まれ
2008年　自治医科大学医学部 卒業
2008年　鳥取県立中央病院 初期臨床研修医
2010年　日南町国民健康保険日南病院 内科
2012年　産前産後休業・育児休業
2013年　大山町国民健康保険名和診療所 所長
2015年　産前産後休業・育児休業
2016年　鳥取大学医学部附属病院 後期研修医
2017年　南部町国民健康保険西伯病院 内科
2018年　鳥取大学医学部地域医療学講座 助教
2022年　鳥取県地域医療支援センター 特命助教

【専　門】家庭医療／プライマリ・ケア
【資 格 等】日本内科学会 認定医
日本医師会 認定産業医
日本プライマリ・ケア連合学会 家庭医療専門医・指導医
総合診療専門医プログラム 特任指導医
【趣　味】SNSに日々の出来事をつづる
耳活（Audible・Podcast等）

わたしの鳥取LIFE!

日本海に夕日が沈む情景

実家が海沿いにあり、毎日のように日本海を見て育ちました。よく晴れた日は、美しいマリンブルーの向こうに隠岐の島が見えることもあるんですよ。
中でも大好きなのは夕景。空と海をオレンジ色に染めながらゆっくりと沈む夕日を見ていると心が洗われます。

▲第1子の育休明けに赴任したのは、幼い頃に自分自身も通院した名和診療所。おなかには第2子も。子育てをしながら故郷の医療に奮闘した経験が今に生きている。

迷い悩んだ10数年の道のり
だからこそ同じ目線で寄り添える

ずっと安心して暮らせる地域医療を目指して奮闘

――紙本先生自身も県派遣医師として長く地域医療に従事しておられますね。

名和診療所のある町で生まれ育ちましたので、私が抱く医師像は「地元の診療所のお医者さん」。祖父の死をきっかけに、住み慣れた地域で適切な医療を受けられるよう人々を支えたいと決心し、医師の道を志しました。

鳥取県立中央病院の初期臨床研修では、地域の病院に赴任することを見据え、「何でもできるようにならなくては」と必死に勉強しましたが、医師3年目では当然まだまだ能力が足りず、日南病院ではふがいなさを感じる日々。外来診療に慣れてなくて「待ち時間が長い」と患者さんに叱られたり、看護師に間違われて「私の主治医は誰ですか」と言われたり(笑)。若い頃はそれが悔しくて。今ならそれを逆手に取って、同じ目線に立って患者さんの本音を聞き出すことができるんですけどね。

――2度の妊娠・出産を経ながらキャリアを積んでこられました。

キャリアのこと、家庭と仕事のバランス、子育てのことなど、いろいろな悩みを抱えていましたが、先輩に相談したり、家族の全面的なサポートを受けながら、なんとか乗り越えてきました。様々な経験を経て、キャリアの道筋は1つじゃないと分かったからこそ、同じように悩む若手医師の皆さんに、柔軟なキャリアパスの提案や助言ができるといいなと思います。

難しさの増す地域医療
救うのは医師の〝人間味〟

――県内の地域医療の現状はどのように捉えていますか?

市中の病院でも「高齢の患者さんが増えている」と肌で感じています。複数の疾患を抱え、複雑な生活背景の中で暮らす患者さんも多い。だから、看護師や保健師、介護士、行政など多職種のスタッフ、あるいは家族と連携しながらトータルマネジメントできる医師がもっと増えてほしいです。

また、中山間地の奥では死亡数がかなり増えており、多死社会の状況も見て取れますので、これからは終末期医療、看取りが重要視されるでしょう。いろんな疾患をコントロールしつつ、より良い終末期を送っていただけるような医療が求められます。

――地域医療を担う医師の役割は大きいですね。

誰とでも対等にコミュニケーションを取ろうとする姿勢が重要だと思います。昔のような権威主義的態度での診療では、患者さんをはじめ、一緒に働く人たちとも本音で話をすることはできません。活発に対話ができ、他者と同じ目線に立てる、〝人間らしい医師〟であることが大切ですね。

――最後に今後の展望を。

現在、地域枠等医師は全部で約200名、誰がどこで県の医療を支えてくれているかをまず把握したい。本当は全員に直接会いに行きたいくらいなのですが、オンラインの利便性を存分に活用し、最近の地域医療実践やその中で感じた喜び、やりがい、悩み事などをみんなで共有し、モチベーションや自尊心を高めてもらいたい。そして、この広報誌「DOCトリ!」やWebサイトを通じて情報発信し、地元を大切にしながら働きたいという人にどんどん呼びかけていきたいと思っています。

お問い合わせ

鳥取県の医療・奨学金制度に関すること
鳥取県福祉保健部健康医療局 医療政策課
TEL.0857-26-7195

医師のキャリア形成・相談に関すること
鳥取県地域医療支援センター
TEL.0859-38-7005

お問い合わせフォームはこちら▶

1度は行くべし!

TOTTORI★イチオシ名鑑

Enjoy Tottori life!

地元の魅力を知り尽くす謎の編集部員「SR」が、観光地とグルメを毎号1カ所ずつご紹介します。せっかくの鳥取LIFE、楽しまなきゃ損ですよ!

遊 @Western

本池美術館

"革の魔術師"の作品ズラリ 胸を打つ高い芸術性!

希世の革人形師・本池秀夫氏の作品が見られる世界初のレザーアート美術館。実物大のキリンやゾウといった野生動物たちは、今にも動き出しそうなほどリアル。また、人々が行き交う街角、家庭での一コマなど日常の何気ないワンシーンを表した作品は、小さな人形の顔や手足はもちろん、衣服や靴、子どもが持つぬいぐるみまでもが革製。その精巧さに驚くとともに、革ならではの温かみが心に染みます。

革の魅力はミュージアムショップにも。バッグやキーケースなどオリジナルアイテムがいっぱいですよ♪

住 米子市大篠津町4841 ☎ 0859-25-0550
営 10:00〜17:00(最終入館16:30)
休 水・木曜日
¥ <大人・大学生>500円 <中高生>300円
<小学生以下>無料
P あり(無料)
🚗 JR米子駅から車で約25分/米子道米子ICから車で約30分

革のカッコよさにハマりそう♡

食 @Middle

カフェ マザー CAFE MOTHER

美・味・量、全て王様級! 冠みたいなソフトクリーム

▲ミルククラウンソフトクリーム 770円

ボリュームは普通のソフトの約2倍!

住 倉吉市大正町1075-67 マンションプリモス 1F
☎ 0858-22-0777
営 11:30〜22:00
休 月曜日 P あり(無料)
🚗 倉吉駅から車で約15分
北条倉吉道倉吉ICから車で約5分

映画好きの店主が考案した数々の「CINEMA MENU」で人気のカフェ、こちらでただいまバズり中なのが「ミルククラウンソフトクリーム」。その形は、ミルクの滴がポチャンと落ちたときにできる美しい王冠のよう。何層も折り重なる細いうねりには気品すら感じます。

味にもこだわりアリ。厳選した素材を、試行錯誤の末に見つけ出したベストの配合でミックスしているのだとか。濃厚ミルキー&極上クリーミーに舌がとろけます。赤を基調としたオシャレな店内で、映画の主人公になった気分で味わってみて。